

グリーンフロート構想研究会

グリーンフロート構想は太平洋上に直径3000m、高さ1000mの人工都市を構築しようという、清水建設株式会社の若いエンジニアたちが中心となって論議を重ねて作りあげた夢の都市構想です。ロケーションは赤道直下の太平洋の浮島です。

浮島の周囲は海洋利用域、表面は農園や森林、中央には高さ1000mの塔が立ち、上部は居住区とビジネス区で構成される空中都市、塔部は植物工場で構成され、それぞれが「植物質な技術」で構成されています。

スーパー連携大学院では参加大学の研究者と学生の皆さんとでグリーンフロート構想を実現するために、いろいろな切り口から研究を行い、新しい技術づくりをして2025年にグリーンフロートの着工を目指します。[グリーンフロート構想研究会の体制について]その実現のためには、非常に多くの新技術が必要になります。

2010年5月に、スーパー連携大学院(コンソーシアムの前身)と清水建設(株)、野村證券(株)は、これらの実用化に向けた研究開発について、三者協定を締結しました。現在、この三者を中心とした委員会を形成して、研究会、状況報告会などの活動を行っています。(グリーンフロート構想研究会 HP より)

